

山行報告書

報告書作成

伊藤荒人

山名 [山域]	別山チブリ尾根	目的と方法	別山登頂と白山展望
登山期間	平成17年4月29日～30日	山行形態	山頂往復(テント携行避難小屋泊)
参加人数	4名(男2・女2)		

行動記録

<4月29日> 岡崎市民病院跡PK(5:00)=岡崎IC(5:05)=長良川SA(朝食6:10,6:37)=白鳥IC(7:12)=市ノ瀬ビジターセンター(9:25,10:45)--0:30--猿壁堰堤(11:15,11:25)--1:10--下の水場(12:35,12:40)--0:35--上水場(13:15,13:25)--0:45--稜線に出た所(14:10,14:20)--釈迦岳展望台(14:37)--2:00--チブリ避難小屋(16:40)就寝(18:50)

<4月30日> 起床(4:50) ...
チブリ避難小屋(6:15)---2:00---御舎利山(8:15,8:30)--0:20--別山(8:50,9:20)--0:15--御舎利山(9:35,9:40)--1:10--
チブリ避難小屋(10:50,12:10)--0:55--釈迦岳展望台(13:05,13:20)--0:55--上の水場下方(14:15,14:20)--下の水場

概念図



日誌

少し雲が多いもののいい天気。定刻の5時に出発。東名高速に入ると交通量が多いが、東海北陸自動車道は空いており順調に進む。白鳥ICを出て、九頭竜付近まで来ると雲が厚くなり、大野に入ると雨が落ちだす。勝山に入ると大粒の雨が車窓をたたきつける。天気予報と異なる。市ノ瀬のビジターセンターで身支度を整えながら1時間余り休むが、止む気配がなくカッパを着て10時45分出発する。猿壁堰堤まで路の臺や山桜が目につく。その後、雪の斜面をトラバースする感じで進んでいく。下の水場(雪解け水で大量の水)を順調に抜けていく。その後、稜線に登る道が発見できず、時間をロスしてしまう。雨は一向に止まず、稜線に出たときには、予定時間よりもだいぶ遅れていた。休憩しても、体の中は濡れて冷え切り、これでは小屋に着けず露営になるのではないかと一抹の不安が襲う。雨は一向に止まず、ガスもかかり、疲労困憊の中、何とか午後4時40分、チブリ小屋に辿り着く。すでに3パーティーが小屋にいたが、9人組パーティーが我々のスペースを空けてくれ小屋で泊まることのできた。夕食は、マーボー春雨。

午前4時50分起床。すでに明るく、晴天なり。畑さんが早速、朝日に染まる白山をデジカメでねらう。朝食は、味噌汁風ぞうに。必要な荷物だけを詰め、アイゼンをつけ、ピッケルを握って6時15分小屋を出発。雪が1mほどあり、木の幹近くを歩くと、時々ずぼっとはまる。しだいに雪の急斜面になる。サプリーが先頭で、足の踏み場を作ってくれてくれる。角度が45度を越す感じで緊張感がある。アイゼンもピッケルも初めて頼もしく感じる。御舎利山手前まで息のつかない急登が続く。上部に達すると、雪が消える。御舎利山頂上では、昨日のデンソーパーティーが休憩しており、同郷のメンバーと知り、15分ほど話し込む。ここからの白山は間近ですばらしい。別山までの稜線は、風もなく穏やかな日差しの中を歩く。別山頂上で、互いに健闘の握手をし記念撮影をする。荒島岳、御岳、北アルプス方面もよく見える。御舎利山までの稜線歩きは、最高である。目的を達成しおえ、白山を見ながら、温かい日差しの中を雪道を感触よく歩く。冬山では味わえない至福の時である。御舎利山からの下りは、気をつけながらも気持ちよく進むことができ、1時間少々で小屋に戻ることができた。チブリ小屋で、ビールを冷やし、4人で乾杯をする。1時間余り、のんびり過ごす。

12時10分小屋を出発。アイゼンもしまい、ザックは重くなったものの稜線上を順調に下っていく。往きに気づかなかった立派なブナ林などの大木が目立つ。稜線を行き過ぎ回り込むように降り道をさがす。往きと比べると、